

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270200399
法人名	社会福祉法人 光の子福祉会
事業所名	グループホーム 光の子
訪問調査日	平成 20 年 2 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270200399
法人名	社会福祉法人 光の子福祉会
事業所名	グループホーム光の子
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市上原町749-1 (電 話) 0956-39-3230

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年4月24日

【情報提供票より】(平成19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・リネン 6,500円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 12月 1現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院、吉田歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、少し人里離れた場所にあり、豊かな自然に囲まれほっとする雰囲気が漂っている。
職員は、「安心と尊厳のある生活」という理念を共有し、利用者がその有する能力に応じて、常に自然体で過ごせるような配慮とケアを大切に考え、実践している。また、年を重ねていく中で、能力や機能の低下をどこまでどのように支援していくかを検討しながら、利用者に安心して生活を送ってもらえるように、日々サービスの向上を目指している。
近々予定している小規模多機能型居宅介護事業所の開設に合わせ、スプリンクラー設置や介護計画等の新システムの導入等により、支援の改善に取り組んでいる。検討を重ねた改善への取り組みに、益々の発展が期待ができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を前向きに捉え、前回の評価結果から、日々のミーティングなどで課題をあげ、さらなる向上を目指し、検討、実践に取り組んでいる。引き続き一部課題が残っているが、今後の取り組みを期待したい。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は評価の必要性や意義を十分に理解しており、今回の自己評価にも職員全員で取り組み、ミーティングや勉強会でさらなるサービスと質の向上に向けた検討も行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議要綱を作成しており、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者の様子やサービスの内容の報告、外部評価への取り組みについての報告が主な内容となっており、会議での意見や提案事項について検討しており、質の向上にどう反映させられるか、また地域との関係をいかに深めていくかを課題として捉えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームへの家族の訪問は頻繁で、家族と職員とのコミュニケーションも十分に図られている。家族会議も開催しており、「利用者や家族の絆に勝る支援はない」と明言される施設長の思いも職員によく浸透しており、家族の思いが表出しやすい雰囲気が伝わる。家族からも「日頃のホームの支援に感謝し協力したい」との意向があり、家族の意見を運営に反映できるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周辺は、民家等が少ない地域であり、近隣の地域の行事や活動への参加は、併設施設と一緒にっており、併設で開催する行事や幼稚園児の訪問などにより交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための環境としてホームを設立し、地域密着型サービス事業所として「安心と尊厳のある生活」という理念を掲げ、理念に沿った支援に努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝15分間のチャペルでのミサと理念の唱和を欠かさず行っており、職員に理念が浸透し、毎日の支援が穏やかに実践されるように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは民家などが少ない地域に位置し、隣接する施設の利用者との合同の活動の中で地域住民とも交流を図っている。また、買い物に出かけた際にも地域住民等と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分に理解し、評価を前向きに捉えている。自己評価には職員全員で取り組み、日々のミーティングや勉強会でさらなるサービスの質の向上を目指して具体的な検討を行っている。外部評価での課題についてもミーティング等で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要綱を作成しており、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームでの活動やサービス提供の状況、評価への取り組み等について話し合いを行っている。出席者から提案された意見等については議事録に残しており、サービスの質の向上に繋がるよう、ケアにどのように反映していくかを課題として職員間で検討している。		

長崎県 グループホーム光の子

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市担当者には地域運営推進会議に出席してもらっており、今後は情報を提供し合い、協力体制ができればと考えている。	○	今後協力体制を築いていきたいという意向があるので、市の担当者との話し合いや情報提供などにホーム側から積極的に取り組み、市担当者にも積極的に関わってもらえるよう働きかけることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームへの家族の訪問は頻繁で、家族と職員とのコミュニケーションも十分に図られている。また、毎月のホーム便りに利用者それぞれの報告を添えており、家族に喜ばれている。しかし、現時点では外部評価の結果の公開については説明が十分でないと考えている。	○	評価については、自己評価、外部評価ともに積極的に取り組んでいるので、ホームを訪れた際等に家族に向けた説明などに取り組まれることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際に、食事会を兼ねて家族会議を開催している。また、家族会議での意見を家族の代表者に運営推進会議においても報告してもらっている。家族の「日頃のホームの支援に感謝し協力したい」との意向があり、運営への家族の意見の反映ができるような体制が見受けられる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職は少なく、異動にも配慮している。異動や退職の際には、利用者への影響を最小限にとどめるよう配慮している。4月に小規模多機能型居宅介護事業所の開設を控えており、異動が発生するが、早期から準備し、利用者への十分な配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長を中心として職員との風通しのよい関係性のもと、職員の個性を育てる取り組みがある。職員は外部の研修にも参加しており、復命書による報告の仕組みも整っている。研修報告書については、併設施設の事務所に保管している。		職員が研修内容を共有しやすいように、ホームにも研修の復命書の控えを置くことなどを検討されてはいかがだろうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は同業者の協会や地域の役員を引き受けており交流の機会が多いが、職員が定期的に他事業所の職員と交流を交わすことは少なく、ミッション系の事業所の視察に他県(九州内)に出向き参考になっている。近場でも見学に出かける準備はあり、今後必要に応じて取り組んでいく予定である。	○	同地域の他事業所の視察等を予定されているので、積極的に取り組み、他事業所の職員との交流が活発になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期支援においては、同法人内の施設からの入居が多いこともあり、事前に十分な情報を得ており、担当の職員を決めてきめ細かな支援に取り組むことで、利用者にも家族にも安心してもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で利用者から学ぶこと、教えられることが多いと感じており、また、全ての利用者が一方的に支援される側になることのないように支援している。利用者の行動一つ一つの目的を理解し、どう答えていくか十分に考え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から利用者の希望、意向を把握し、意向に沿えるよう努めている。また、家族とも話し合い、利用者のより良い暮らしを支援できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、アセスメントについても職員全員で意見交換を行っており、より具体的な介護計画の作成を行っている。家族や利用者には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは行っているが、見直しに関する記録が十分でないように見受けられる。また、日ごろの気づきや情報の記録は残っているが、それらの介護計画への活用についても十分でない面がある。	○	現在、介護計画作成ソフトを入れ替えて、職員全員で学習を進めている。記録等にかかる時間を短縮し、利用者との関わりを深めサービスの質の向上に努めたいと考えているので、介護計画の見直しについても、定期的な実施の記録を欠かさず、見直した介護計画を整備することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的に家族が同行しているが、家族が都合がつかない時などは状況に合わせて職員が対応している。また、遠方から面会に訪れる家族の宿泊の支援をするなど、その時々利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれの主治医を受診しており、また、ホームの協力医の往診も月2回あり、適切な医療が受けられるよう体制を整えて、健康面の管理に留意している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して、重度化した場合や終末期のケアについて説明している。その後も経過を見ながら家族、かかりつけ医、協力医療機関等と繰り返し話し合い、重度化や終末期へのケアを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の業務の中で、利用者のプライバシー確保に対する職員の意識向上を図るよう指導しており、書類等の保管についても配慮し、個人情報保護にも全力で取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりに尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損なわないようそれぞれに合わせた言葉遣いなどに配慮している。また、各居室にトイレや洗面所を配置しており、排泄の支援もプライバシーに配慮して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者のその日の体調や、その時々気持ちを尊敬して対応しており、一人ひとりのペースに合わせて、散歩や買い物などの支援も行っている。		

長崎県 グループホーム光の子

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。全介助が必要な利用者にもゆっくりと時間をかけて、語りかけながら支援している。利用者をしっかりと観察し、職員が必要な介助を行うことで、落ちついた雰囲気ですべての食事が行われている。また、外出し、屋外で四季折々のお弁当を食べるなど、普段と違った雰囲気ですべての食事を楽しんだり、食欲を促すような取り組みも取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後に入浴するよう決まっているが、併設施設の大浴場(天然温泉)も利用できるようにしている。ゆっくりと入浴を楽しめるようにしており、利用者の楽しみごとになっている。	○	現在、併設施設の大浴場を活用し、入浴が利用者の楽しみごととなっているので、利用者により自由に入浴を楽しんでもらえるよう、いつでも希望するときに入浴できるような体制を検討し、取り組まれることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの残された機能を十分発揮できる役割や楽しみごとが持てるよう、日ごろの観察、支援に努めている。訪問調査当日は、利用者が昼食の準備を手伝う姿が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者に希望を聞きながら、毎日の食材の買出しに2名程度の利用者を誘い、一緒に出かけている。お金を使うことや外気に触れ、地域の人々と会話を交わす楽しさを感じてもらえるように心がけて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず、職員は利用者それぞれの状態を把握し、見守りを徹底している。利用者に出出するような様子が見受けられたら、さりげなく声をかけ、利用者の希望を尊重し一緒に外出するなどして、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等災害マニュアルを作成し、年2回昼夜それぞれを想定した訓練を実施し、消防署の指導を受けている。この3月にはスプリンクラーも設備することになっており、災害に備えた体制を整えている。また、地域の消防団の協力も得られるようにしている。		

長崎県 グループホーム光の子

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、水分、食事の摂取量の管理を行って、定期的にアドバイスを受けている。疾病による食事制限のある利用者はおらず、利用者の好みも取り入れた献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、天井が高く、かわいいシャンデリアのあるリビングがあり、安らぎが感じられる。また、一人掛けの椅子などが配置され、居心地のよい居場所が確保されている。また、回廊の中心には中庭があり、樹木が植えられ心地よい日差しが注いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの品々が持ち込まれ、整理されており、家族の写真を飾ったり、観葉植物を置いたりして、それぞれの個性が感じられる居室となっている。換気もきちんと行い、空気清浄器や加湿器も設置しており、気になる臭いもなく爽快である。また、家族が宿泊する際には居室を利用してもらえるようにしている。		